

相模原看護専門学校令和5年度自己点検・自己評価及び 学校関係者評価の結果について

本校では、教育活動及び学校運営等の質の保証と向上に継続的に取り組むため、自己点検・自己評価及び学校関係者評価を行い、評価結果についてお知らせしています。令和5年度の評価結果がまとまりましたので、次のとおり報告します。

令和6年9月5日

公益財団法人 相模原健康福祉財団
相模原看護専門学校
校長 水澤 晴 代

1 自己点検・自己評価

(1) 評価方法等

令和5年度(令和5年4月～6年3月)の学校教育活動について、教職員による担当者評価及び自己点検・自己評価委員会により評価した。

(2) 担当者評価

令和6年3月に実施
校長を含む全教職員

(3) 自己点検・自己評価委員会

開催日 令和6年4月17日、5月16日、6月4日、6月26日
出席者 校長、看護学科長、学科長補佐、事務局長、事務次長、

(4) 評価項目

「看護師養成所の教育活動等に関する自己評価指針」における9カテゴリー・125項目を踏まえ、学校独自に設定した10区分・30項目により評価を行った。

(5) 評価基準

30項目について、次の4段階で評価
十分に満たしている：4 満たしている：3 改善の余地がある：2 改善が必要：1

2 学校関係者評価

(1) 評価方法等

学校関係者評価委員会を開催し、令和5年度自己点検・自己評価結果について事務局から説明し、委員から評価結果に対する意見や提言をいただいた。

(2) 学校関係者評価委員会

開催日等 令和6年7月8日 午後6時～7時45分 相模原看護専門学校で開催
出席者 評価委員(5名)
阿部 徳子 神奈川県看護協会相模原支部理事、相模原協同病院看護部長
稲野 博泰(副委員長) 相模原市医療政策課地域医療対策室長
小林 一裕(委員長) 相模原市病院協会看護部長会長、相模ヶ丘病院看護部長

篠崎 正義 相模原市医師会事務局長

森谷 光俊 相模原市病院協会理事、黒河内病院院長

事務局（5名）

校長、看護学科長、学科長補佐、事務局長、担当専任教員

3 評価結果

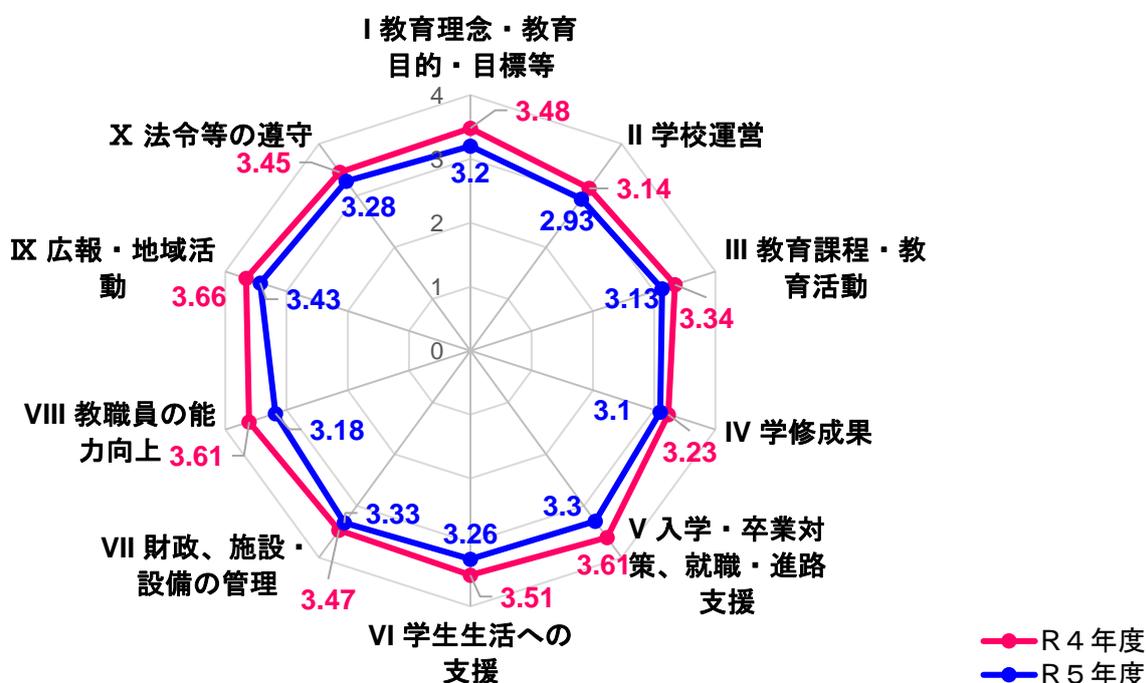
別紙のとおり

以 上

令和5（2023）年度 自己点検・自己評価（総括表）

評価項目		平均	
		R4年度	R5年度
I	教育理念・教育目的・目標等	3.48	3.20
II	学校運営	3.14	2.93
III	教育課程・教育活動	3.34	3.13
IV	学修成果	3.23	3.10
V	入学・卒業対策、就職・進路支援	3.61	3.30
VI	学生生活への支援	3.51	3.26
VII	財政、施設・設備の管理	3.47	3.33
VIII	教職員の能力向上	3.61	3.18
IX	広報・地域活動	3.66	3.43
X	法令等の遵守	3.45	3.28
全体平均		3.45	3.21

*評価基準	
4	十分に満たしている
3	満たしている
2	改善の余地がある
1	改善が必要



自己点検・自己評価（総括）

卒業生数は81名、うち17回生は78名（3年間で卒業した者の卒業率は93.5%）であった。看護師国家試験は81名中79名（97.5%）が合格した（前年度は74名卒業、71名（95.9%）合格）。市内就職率は79名中69名（87.3%）（前年87.8%）であり、地域に貢献する看護師の育成という本校の理念・目的を十分に果たしたと評価できる。

教員による自己評価については、昨年と同様教員個人による評価の集計とした。全体平均は3.21（対前年-0.24）であり、昨年と比較するとすべての項目で評価点は下がった。個人による回答のため、評価項目の設問の解釈が違って回答されている点も見受けられる。また、2または1を評価点にした場合は具体的な説明を求めているが、記載がなく回答している状況も多々見られた。

自己評価項目I～Xの内訳は、全区分で評価基準3（満たしている）以上であり、概ね良好である。唯一評価基準3に達していなかった評価項目が、II学校運営の4「組織全体でチーム力を発揮した取り組みを行っている」であり、2.65（対前年+0.10）と低く、意思決定における情報共有の適時性が課題である。

今回、自己点検・自己評価に関する教員の理解や解釈が各々になっている点があった。自己評価・自己点検の目的や意義の共通理解を図る必要がある。また、組織の一員としてより良い学校運営のためにはどうしたらよいか、建設的な視点で考えられるように促すことも重要である。今後、さらに教職員の取り組んでいる内容を正確にかつ客観的に評価し、自己肯定感が得られるような評価の方法を考えていきたい。

●学校関係者評価委員からの意見

- 国家試験の合格率、学生による自己の到達度評価は昨年よりも上回り、学校としては教育目標の達成に向けた取り組みに、一定の効果があつたものと認められる。
- 効果があつたにも関わらず自己評価が下がっているのは、評価のプロセスに課題があると思われる、より客観的な評価方法の検討が必要である。
- 今後も、教育の質の向上を目指し、教職員一丸となった取り組みを期待したい。

令和5年度 自己点検・自己評価（評価項目別）

4	十分に満たしている
3	満たしている
2	改善の余地がある
1	改善が必要

評価が3.0未満

I 教育理念・教育目的・教育目標等		
1	社会のニーズを踏まえた教育理念・目的・目標・ディプロマポリシーが定められているか。	3.40
2	教育理念・目的・目標・ディプロマポリシー・特色などが教職員・学生・保護者等に周知されているか。	3.00
		平均 3.20
【特記事項・課題】		
<ul style="list-style-type: none"> ・教育理念・目的・目標ディプロマポリシー等は定めており、入学時オリエンテーション時に学生のみでなく家族への説明も行い周知している。 ・自己点検・自己評価に関する教職員の理解や解釈が各々になっているという意見があり、カリキュラム評価と並行して話し合う必要があると考える。 ・少子化に伴い入学してくる学生を厳選することは難しく、ディプロマポリシーの内容に到達できるように教育するにはかなり困難を要する学生への対応が必要との意見があった。 		
【評価委員からの意見】		
<ul style="list-style-type: none"> ・教育目標等をもっと保護者に周知した方がよい。 ・学生の評価を見ると、昨年より到達度が上昇しているのに、教員の自己評価が下がっている。もっと教員は自分がやっていることに自信をもち、とくに、この部分は高評価すべきだ。 		
II 学校運営		
3	学校の教育理念・目的・目標・ディプロマポリシーを実現するための運営方針を策定しているか。	3.00
4	組織全体でチーム力を発揮した取組を行っているか。	2.65
5	学校運営の評価が適切に行われているか。	3.15
		平均 2.93
【特記事項・課題】		
<ul style="list-style-type: none"> ・校長は、中期経営計画をもとに前年度の評価を踏まえて運営方針を策定している。教職員会議で説明し、意見を募ると共に周知を図っているが、実施、評価について曖昧に感じるとの意見があった。 ・学生の学力や能力を考えた運営は考えられていないという厳しい意見があり、細やかな指導を要する学生が増えていることに対するマンパワー不足と教員の疲弊感の改善が課題である。 ・今ある課題への対応に追われ、課題の本質が見えてこないとの意見もあり、現状分析等を重ねていく必要がある。 ・昨年と同様に教員会議等で随時課題の検討は行っているが、教職員間でのタイムリーな情報共有や意思決定のための協議が十分できていないことが課題である。校内ネットワークを効果的に利用し、情報共有を図っていく。 		
【評価委員からの意見】		
<ul style="list-style-type: none"> ・多様な背景を抱えている学生が増え、その対応に疲弊感を感じていることが、低評価につながっているのではないかと。 ・評価をする際に、課題を洗い出すことも大切だがよい点をアピールする方法を取り入れた方がよい。 		
III 教育課程・教育活動		
6	教育目標を明示するとともに、卒業時の到達状況を分析しているか。	3.10
7	教育内容は、教育理念・目的・目標・ディプロマポリシーと一貫性があり、時代の要請に応える内容になっているか。	3.05
8	体系的なカリキュラム運営が行われているか。	3.10
9	評価について公平性・妥当性が保たれているか。	3.10
10	実習時の安全体制が整っているか。	3.30
		平均 3.13
【特記事項・課題】		
<ul style="list-style-type: none"> ・卒業時の到達状況評価は、卒業生数、国家試験合格率、卒業時到達目標評価などで行っている。係や学年の教員間で検討は行っているが、全体としての課題と対策について共有することと教員間の目標の理解、解釈を共通理解していく必要がある。 ・臨床判断能力の育成に向けて各領域で検討し、領域横断を図りながら臨床判断能力を育成することが課題である。 ・実習評価については、不合格の学生に対しその理由を明確にして再実習計画を立案し、会議で検討している。教員間の評価基準の認識の共有や評価方法や指導方法について共有が図れるようブラッシュアップすることが課題である。 ・感染予防対策は、コロナは5類に移行の後も継続して意識付けを行い、実習施設の協力もあり、すべての実習を病院等の施設で行うことができた。 		
【評価委員からの意見】		
<ul style="list-style-type: none"> ・安全管理の面で、現在でも感染症対策が重要であり、円滑な実習のためには、実習施設との協議を、事前にルール化しておくことがよい。 		
IV 学修成果		
11	学生の単位取得にむけた支援を実施しているか。	3.10
12	国家試験の合格率が100%となるよう、教職員一丸となって取り組んでいるか。	3.10
13	退学率の低減を図っているか。	3.10
		平均 3.10
【特記事項・課題】		

<ul style="list-style-type: none"> ・未修得単位を抱える学生が多い現状であり、昨年と同様に1/4を超える学年もある。 ・国家試験合格率は97.5%（全国平均93.7%）。早期からの学習指導に一定の効果がみられた。しかしながら、学習の積み重ねの部分で弱いところもあり、いかに全教員で取り組んでいくかが自校の課題である。 ・令和5年度の退学者は5名（2.0%）。うち3名が学校生活不適応、学習意欲低下である。1名は学力不振での進路変更、1名はコロナ後遺症である。成績低迷や学習意欲の低下、経済的理由などが根底にある。欠席の続く学生へは早期に対応し、保証人とも連携を取りながら、学習を支援していく。 ・生活指導も含めた学習指導方法の更なる検討が必要である。 		
【評価委員からの意見】		
<ul style="list-style-type: none"> ・国家試験の合格率も上がっており、もっと高評価すべきである。評価の目的を再度評価者に浸透させることが大切だ。 ・評価方法も個人ではなく、チーム制にしてみてもどうか。 		
V 入学・卒業対策、就職・進路支援		
14	入学応募者確保に努めているか。	3.20
15	就職・進路支援に取り組んでいるか。	3.55
16	卒業生への支援を行っているか。	3.15
		平均 3.30
【特記事項・課題】		
<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度入学入試の入学応募者は138名であった。少子化や大学志向の影響もあり、前年の31%減となったが、辞退者が少なく定員を超える85名の入学者となった。また、PR活動として、高校への訪問説明会は12回行い、参加者はのべ91名、オープンキャンパスは、16回開催し参加者は、延べ558名であった。一日看護体験では、参加希望者が全員参加し、同じ演習が体験できるよう、午前・午後と2日間にわたり4回同じ演習を実施した。今後は、高校等の進路決定スケジュールや学校行事を調査し、効果的な広報活動を行いたい。 ・高校説明会では、参加人数のばらつきも大きく、参加意欲も差が大きい。説明会への参加が、どの程度入学応募につながっているのか、把握していくことが課題である。 ・進路指導は各学年でチューター制をとり、1年次から進路を見据えてインターンシップ等促し、参加している学生が多い。 ・既卒者に関しては、離職や再就業に関しての支援が課題である。同窓会の活性化も含め検討していく。 		
【評価委員からの意見】		
<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、オープンキャンパスや広報活動をしっかり進めていただき、入学者の確保に努めてほしい。 		
VI 学生生活への支援		
17	健康管理面、経済面、精神面からの学業継続支援体制が整っているか。	3.50
18	学生の自主的な活動を支援しているか。	3.10
19	学校運営に学生の意見が反映されるように努めているか。	3.10
20	学生の就学ニーズを踏まえた教育環境が整備されているか。	3.35
		平均 3.26
【特記事項・課題】		
<ul style="list-style-type: none"> ・学習のみでなく健康面、精神面から経済面、生活指導まで、学年のチューターがこまめに相談に応じている。 ・精神面の支援が更に必要な学生へは、カウンセラー利用の紹介も行っている。 ・学生自治会とは、年に1回意見交換会を設けており、学生の要望に対して対応を行っている。実現が困難なものへは丁寧に回答しているが、学生から「言っても変わらない」という意見を聞くことがあるとの指摘有。 ・教員主導で行事計画をしているため学生の意見を踏まえる必要があるとの意見もある。 		
VII 財政、施設・設備の管理		
21	予算計画、年間事業計画を策定し、適正な予算の執行・進行管理を行っているか。	3.15
22	災害など非常時の危機管理体制が整備されているか。	3.25
23	施設・設備及び教材が整い、安全・安心が確保されているか。	3.50
24	学生の自主的な学修の場を確保しているか。	3.40
		平均 3.33
【特記事項・課題】		
<ul style="list-style-type: none"> ・中期経営計画に則り、毎年年間事業計画を策定・実施し、教職員会議で報告している。 ・防災訓練は年2回行い、自転車事故防止講習も毎年実施している。 ・学生が自己学習するための図書室については、毎年図書を追加購入し、古いものは除籍することで、使いやすく工夫している。 ・経年劣化に伴う空調などの改修整備は、今後の課題である。 ・組織的な経費削減策というところがされているのか改善の余地があると感じたとの意見があった。 		
VIII 教職員の能力向上		
25	教員は、看護教育力向上に努めているか。	3.15
26	教員の能力向上に対する取組を支援する環境があるか。	3.20
		平均 3.18
【特記事項・課題】		
<ul style="list-style-type: none"> ・学会や研修に参加するための予算や体制は整えており、教員は全員が積極的に参加している。報告書の回覧は行っているが、学習会で共有するなど伝達方法は課題である。 ・研究授業は外部講師を招いて行っているが、今年度は講師の都合で年1回の実施となった。同じ外部講師を招いての授業研究を10年以上実施しているため、見直す時期に来ていると考える。課題を把握した上で、実施方法は検討の必要がある。 		
【評価委員からの意見】		
<ul style="list-style-type: none"> ・研修は知見を広める場であり、教育の質の向上につながるのので、積極的に参加してほしい。 		
IX 広報・地域活動		
27	学校をPRするために積極的な広報活動をしているか。	3.45
28	地域社会の一員として、貢献しているか。	3.40
		平均 3.43

【特記事項・課題】		
<ul style="list-style-type: none"> ・前年度の評価を踏まえ、オープンキャンパスの日時・回数、開催内容を計画している。 ・ホームページ内でオンラインオープンキャンパスを公開し、模擬授業、施設紹介も取り入れている。 ・白優祭（学校祭）は、相武台地区のふるさとまつりと同日開催とし、天気に恵まれなかったが、610名（令和4年度671名、令和元年度280名）の参加があり盛況であった。 ・相模原市、市の病院協会と連携し、再就業支援に向けての話し合いや技術研修会の開催に協力している。 ・市内の施設で行われる就業者の技術演習のために、モデル人形の貸し出しを行っている。 ・ホームページ以外の広報活動についても、InstagramやTwitterなどの活用も検討する。 		
【評価委員からの意見】		
・学生の地域での評判が悪くならないよう、生活指導を行ってほしい。		
X 法令等の遵守		
29	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。	3.55
30	コンプライアンスを重視した学校運営がなされているか。	3.00
		平均
		3.28
【特記事項・課題】		
<ul style="list-style-type: none"> ・法令や専修学校基準を遵守し、改正された法律に対しても順次対応している。 ・学校におけるハラスメントについては、学生必携に記載し、説明を行っている。また、申し出があった際には、管理者が情報を収集し、当該者の意見も確認したうえで、対応している。相談窓口を設けることや第三者委員会の設置について検討していく必要がある。今後、教職員研修等で教職員への意識づけを行っていきたい。 		
【評価委員からの意見】		
・引き続き、適切な対応をお願いしたい。		